あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.194　2014.9.1

明治39年9月21日に、明治三十七、八年戦役紀念館が誕生し、現在の松本市立博物館になりました

松本市に博物館が誕生した9月21日(日)を記念して、「松本市博物館の日」として
博物館全館を無料開館し、各館で記念行事を実施します
この機会に、松本の博物館をまるごとお楽しみください

もくじ

誌上博物館 ◇ 10周年を迎えた「まつもとの七夕」……2-3
博物館TOPICS ◇ 秋季企画展「中山に牧があった頃」……4
◇ 報告：四賀化石館夏休み特別企画……5
◇ 窪田空穂記念館企画展「空穂と水穂」……6
各種事業紹介……7
ガイドコーナーはんてんぼく……8

10周年を迎えた「まつもとの七夕」

はじめに

松本市域の七夕は月遅れに行われ、人形を飾る、ホウトウを食べる（現松本市域ではマンジュウを食べる地域もある）などの特色があります。また、松本市立博物館（以下「博物館」と略す。）には昭和30年（1955）に国の重要有形民俗文化財に指定された七夕人形コレクション45点が収蔵され、ありがたいことに「七夕人形と言えば、松本の博物館」、そんな声をよく耳にします。

ここでは、今年で10周年を迎えた「まつもとの七夕」事業を振り返り、若干、将来の展望をしてみます。

1　始まりは緑町商店街から

緑町商店街の役員であるOさんとIさんから「緑町で松本の七夕について勉強会をやることになったで、6日の夜にでも学芸員が七夕人形でも持って話しに来てくれねぇかい」と筆者に電話があったのは昭和60年の7月頃であったと記憶しています。当時、かつてほど七夕人形が飾られなくなったことを嘆いた2人が先頭に立ち、緑町の商店の店頭に七夕人形を飾り、新たに七夕人形のある風景を創りたいとのことでした。この時期は博物館実務実習生の受入れ期間であったので、以後、筆者は実習生とともに「松本の七夕を考える会」に出かけ、住民主体の学習会のお手伝いをすることになりました。今思えば、博物館の出前講座と市民協働事業のさきがけとなるもので、筆者の知る限りマチ中で意図を持って始まった七夕人形飾りは、緑町の皆さんが初めてであったと思います。

緑町での松本の七夕を考える会　昭和62年8月7日

その後、緑町商店街の事情もあり、この会の活動は休止しましたが、今に至るまで月遅れの七夕の季節には商店街の店頭に風情ある七夕人形が飾られます。

2　七夕人形コレクション指定50周年を機に

平成17年（2005）は、先にふれた七夕人形コレクションの指定50周年を迎えた年でした。博物館では文化庁の芸術文化拠点形成事業の助成を受け、特別展「七夕と人形」を行いました。文化庁からの助成条件は、博物館内だけで完結せず地域＝マチと連携して事業を行うことでした。したがって、私たちは緑町商店街との事業をヒントに、マチ中にも七夕人形を飾る、飾ってもらう「まつもとの七夕2007」をスタートしました。この年は大名町に七夕人形のパネルを飾り、空き店舗を借用して本格的に七夕人形を飾りました。また100対の七夕人形を商店街に貸出し、飾ってもらいました。このようにして、「マチから博物館へ」「博物館からマチへ」という動きが具体的に見え出しました。

空き店舗に飾られた七夕人形　平成17年8月

その後、私たちの想像以上に七夕人形飾りは年々盛んになり、松本商店街連盟の皆さんも協力していただけるようになりました。また、松本おかみさん会の皆さんも人形を作ってマチ中や公共施設に飾るなどの動きが出てきました。さらに七夕人形を製作販売している人形店の皆さんが「まつもと七夕会」を立ち上げ、博物館が継続して行っている事業にご支援をいただけるようになりました。今年同会が作ったチラシには「まつもとの七夕人形」「知る・見る・買う」の文字とともに、マチ中で七夕人形を飾る通りが地図に示されています。このような動きは市民の伝統文化に対する関心の高さを示しているのではないでしょうか。

「まつもとの七夕2014」が始まりました。人形の展示は、博物館のほか分館のはかり資料館・窪田空穂記念館・重文馬場家住宅で

緑町のまちなか展示　平成26年8月6日

行っています。（この原稿は8月上旬に書きました）マチ中には博物館から貸出した七夕人形300対が飾られ、ほかに自主的に七夕飾りを行う町会（通り）もあります。

3　ホウトウを食べる・七夕人形を作る

博物館では、平成12年から8月7日に入館者にホウトウをサービスしています。ホウトウは、簡単に説明すると、茹でたきし麺に餡（あん）や黄粉（きなこ）をあえたものです。このサービスの主役は博物館ボランティア・エムの会の皆さんです。七夕に人形を飾り、ホウトウを供え食べることが松本市域の民俗の特色とするならば、市民や観光客の皆さんがそれを知る、見る、食べる機会を設けることが地域博物館の学習支援活動になると思います。七夕人形を見た皆さんは一様に関心を示しますが、ホウトウには両極端の反応がみえて面白いですね。

エムの会によるホウトウサービス　平成25年8月7日

また博物館では、「七夕人形てづくりキット」を開発し、オリジナル・グッズとして販売しています。例年、職員や博物館実習生が講師となって体験学習講座を開き、子どもたちが参加します。24年度に実習を受け、今年から博物館の学芸員として働くMさんは「七夕展示を見て、家でも一時期着物掛けの七夕人形を飾っていたことを思い出した。七夕に人形を飾るのが松本独特のものとは意識していなかったが、七夕人形作り講座や大名町の七夕飾り設置などを通して、今は松本の七夕の象徴として七夕人形が根づいていることを実感した」と感想を寄せています。

七夕人形作り講座　平成26年8月7日

平成24年からは新しい動きが二つ加わりました。一つは職員が新たに製作体験用の七夕人形キットを開発したことで、短時間で簡単に作れるキットです。もう一つは、市民学芸員も体験学習の講師に加わり、より充実した体制が組めるようになったことです。

今年は7月11日には芳川小学校に職員が出向き、児童・保護者に松本の七夕の概要について説明し、このキットを使った人形作りを行いました。8月7日には松塩筑の高校生と教員が博物館で七夕人形について学び、七夕人形を作る体験をしました。

芳川小学校 七夕人形作り講座　平成26年7月11日

4　松本まるごと博物館構想推進の一つ

博物館が10年にわたり地域と連携するのは初めてです。七夕をキーワードにして、人形や行事、行事食・ホウトウ（マンジュウ）まさに「松本まるごと博物館」構想にある、市域は屋根のない博物館、文化的視点による「ひとづくり」「まちづくり」に寄与する博物館が具体的なかたちになった一つと言えるのではないでしょうか。

このような取組みは、文化庁や視察にみえた行政関係者から、ありがたい評価をいただきました。平成22～24年度は文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」の助成を受け、24年度には特別展「七夕人形の風物詩」を開催するなどしました。この3年間では七夕に特化した事業が充実し、例年にも増して多くの方々に松本市域の七夕の特徴を知ってもらうことができました。

おわりに

「まつもとの七夕」事業、課題もありますが、多くの市民の皆さんと協働で新たな年中行事の創出と文化の伝承に取組みたいと思います。

近い将来、松本駅から博物館･松本城に至るルートに七夕人形が飾られることを夢見て！

（松本市立博物館　館長／窪田雅之）

松本市立考古博物館 Tel.0263-86-4710

秋季企画展「中山に牧があった頃」

9月20日(土)～11月16日(日)

はじめに

考古博物館は、松本市南東部の中山地区にあります。ここから、松本平を一望する山麓の田園風景を歩くと、道端の「馬頭観音」に出会えます。「馬頭観音」は、正しくは「馬頭観世音菩薩」と言い、亡くなった馬に対する供養や、馬の安全と成育を祈願するものとして、江戸時代中頃から、馬の神として信仰され造立されました。

現在においても、馬頭観音を通じて馬との関わりを感じられる中山地区では、古代には朝廷直轄の御牧(みまき)「埴原牧」が設置され、朝廷に献上される多くの馬が飼育されていました。また、数多くの古墳からは副葬品として馬具が出土しています。そこで、「馬具」と「埴原牧」を通して、古代における人と馬との関わりをご紹介します。

1　馬の伝来

中国の書物『三国志』のいわゆる「魏志倭人伝」には、「其の地には牛・馬無し」との記述があり、3世紀の卑弥呼の時代には、日本に馬はいなかったと言われています。日本に馬が伝えられたのは、5世紀に入り、日本が朝鮮半島を巡る国際情勢に関与する中で、日本(倭)の武力強化のために、朝鮮半島から馬とともに馬飼(うまかい)集団がやってきたことによると考えられています。

その後、5世紀前半には、古墳の副葬品に馬具が用いられるようになり、そのため、河内(今の大阪府東部)や信濃で馬の飼育が始まったと言われています。信濃では、飯田市の伊那谷地域で、5世紀前半から後半にかけて馬の墓が発掘されています。1つの古墳の周囲に8頭もの馬が埋葬されていることから、この時期には、伊那谷での馬の飼育が軌道に乗りはじめ、人の死に際して馬を殉葬させる習慣があったと考えられています。

2　中山古墳群の馬具

中山古墳群の6世紀後半から7世紀後半にかけて築造された古墳から、馬の口に咬(か)ませる轡(くつわ)や金具などが出土しています。

中山地区以外でも、南方(みなみがた)古墳(入山辺)や妙義山古墳(本郷)などから、轡や杏葉(きょうよう)、雲珠(うず)などの馬具が出土し、また、出川南(いでがわみなみ)遺跡(庄内)などの集落からも轡が出土しており、いずれも7世紀代の古墳や集落です。松本市内で馬具が出土する地域は、中山から入山辺、本郷といった松本平の東山山麓周辺にまとまっており、東山山麓の地形や自然環境が、馬の飼育に適していたことを示しているのではないでしょうか。

南方古墳出土馬具

3　埴原牧(はいばらまき)～信濃十六牧のひとつ～

『日本書紀』の天智天皇7年(668)7月条に「多くの牧を置き、馬を放した」と記述があり、この時期に組織的に馬の飼育が行われたことを示しています。中山地区では、6世紀後半の古墳から馬具が出土していることから、すでにこの時期には馬の飼育が行われていたと考えられます。

その後、延暦16年(797)には、都から赴任してきた牧を管理する役人(監牧(けんもく)、のちの牧監(もくげん))に、埴原牧田が与えられたという記録があります。また、延長5年(927年)に編纂された『延喜式(えんぎしき)』には、左右馬寮(さゆうめりょう)の所管で朝廷に馬を貢上する「御牧(みまき)」の、信濃十六牧のひとつに埴原牧の名が記されています。

つまり、それまであった在地豪族の個人の牧が、8世紀末になって御牧として朝廷に接収されたのだと考えられます。

現在、中山地区の千石(せんごく)と古屋敷(ふるやしき)の地籍に、傾斜地を6段に造成した土地があり、埴原牧の「繋飼場跡(けいしじょうあと)」として長野県史跡に指定されています。繋飼場とは、放牧を終えた馬を冬に飼育したり、都に送る前に調教する場として利用した場所です。千石の繋飼場跡は、両側と上段に堀が残されており、南側の堀は2重になっています。これは全国的にも珍しい牧場遺構と言われています。

埴原牧「千石繋飼場跡」

おわりに

古代の松本、特に中山地区において、たくさんの馬とそれを飼育する人々、さらに埴原牧を経営するため都から派遣された役人など、馬との関わりの中で人々は生活していたと思われます。また、少し前までは、私たちの生活のなかでも、馬は馬耕や運搬など日々の生活に欠かせない家族同様の存在でした。しかし、現在では、道端の馬頭観音に思いを馳せる遠い存在になってしまいました。私たちの生活を支えてきた馬との関わりのルーツを、この展示を通して感じていただきたいと思います。

(考古博物館　学芸員 / 千賀康孝)

バス見学会　埴原牧を歩く

[日　時] 10月12日(日)　午前9時～正午
[定　員] 20名
[参加料] 200円(考古博物館観覧料を含みます)
[内　容] 埴原牧の千石繋飼場跡や、馬具が出土した中山古墳群の古墳を見学します。

松本市四賀化石館 Tel.0263-64-3900

報告：四賀化石館夏休み特別企画

はじめに

信州といえば美しい山々を思い浮かべますが、かつてはクジラが泳ぐ海だったことをご存じでしょうか。夏といえば海ですが、山にいながら海を感じることができる四賀化石館で、夏休みの思い出の一日を過ごしていただこうと様々な企画を行いました。

1　新種のカワハギ化石「シガウスバハギ」展示解説

8月14日(木)

去る6月15日に、京都大学大学院生の宮嶋佑典（ゆうすけ）さんが新種のカワハギ化石を寄贈してくださいました。この化石の発見場所は、シガマッコウクジラの全身骨格化石が発掘されたすぐ近くです。この新生代中期中新世の地層（1300万年前）からは、軟骨魚10種、硬骨魚40種の化石が報告されています。今回、見つかった化石が新種だと判断された決め手は奇跡的に残っていた第一背鰭棘（せびれきょく）でした。この化石は見つかった四賀地区にちなんで「シガウスバハギ」と命名され7月5日から四賀化石館で展示公開しています。そして8月14日に発見者の宮嶋佑典さんが来館され、シガウスバハギについて講義と解説をしてくださいました。この発見に至るまでの、宮嶋さんの調査・研究活動の一端をかいま見ることができ、とても勉強になった一日でした。

2　絵本「きょうりゅう」原画展

8月2日(土)～31日(日)

絵本「きょうりゅう」（スズキサトル絵・まつしたさゆり作）は、昨年の化石教室に小学生の息子さんと参加したご夫妻が作ったものです。カラフルでユーモラスな恐竜の絵と、リズミカルな恐竜の名前がまるで言葉遊びのようで、とても楽しい絵本です。まず、その骨格を見せて、それがどんな恐竜か子供達に想像させるように描かれています。読んですぐにこれは化石館にぴったりの絵本だと思いました。今回、その原画をお借りして、化石館に展示することができました。小さな子供達は恐竜が大好きです。その気持ちが大昔の地球の生き物への興味、化石への興味につながっていくことと思います。

3　シガマッコウクジラデジタル3D化製作風景公開

8月2日(土)、3日(日)

シガマッコウクジラは世界的に有名な化石です。ほ乳類の化石の研究者なら、誰もが一目置く存在です。今回、シガマッコウクジラをデジタル3D化したいと申し出てくださった荻野慎諧さんもそんな研究者の一人です。3D化されたシガマッコウクジラの全身骨格の画像は前後左右から、下からも上からも視点を変えて覗き込むことができます。今後活用していくことを考えていきたいと思います。

4　微化石モンスターを探せ!

8月9日(土)

自然系博物館で「チリメンモンスターを探せ」というワークショップが人気です。ちりめんじゃこの中に入っているエビやカニの子供、奇妙でユーモラスな稚魚たちを見つけ出す面白さ。その楽しさを化石の世界でも実現できないかと始めてみたのが「微化石モンスターを探せ」です。

スプーン1杯の砂の中に300万年前の海の姿がつまっています。ただの砂粒にしか見えないものの中に、二枚貝のかけら、ウニのトゲ、カニのツメなどが見つかります。たった1㎜の完璧な巻貝を見つけたりすると思わず歓声をあげたくなり、大人も楽しめる講座となりました。

おわりに

古代の海の生き物が化石として何百、何千万年もその形をとどめていることは、いくつもの偶然が重ならなければ実現しません。化石はすべて奇跡的な存在なのです。その化石がなぜ、松本にこんなにも多種多様に産出するのか。その謎は解明されていません。だからこそこの地には全国の研究者の注目が集まってきています。古生物や化石の不思議を体感しに、ぜひ四賀化石館に足を運んでみませんか。

（四賀化石館　学芸員／高木美保子）

[参考文献]
信州新町化石博物館研究報告（1998年3月）

窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

企画展「空穂と水穂」 9月27日(土)～11月30日(日)

はじめに

窪田空穂（本名:窪田通治）は、松本市和田出身の歌人です。国文学者、教育者という顔も持ちつつ、昭和42年（1967）に90歳でその生涯を終えるまで、歌人として1万4千首以上の短歌を詠みました。

塩尻市出身の歌人・太田水穂（本名:太田貞一）は、空穂が短歌の世界に入るきっかけとなった人物です。今回の企画展では、対立した時期がありながらも関わりの深かった「空穂と水穂」にスポットをあて、随筆や書簡、2人の詠んだ短歌などを通して、交流や人間像に迫っていきます。

1　出会い～歌人の道へ

2人の最初の出会いは、空穂の旧友が水穂を紹介したことでした。友達が少なかった空穂は、「歌の上手な男がいる。紹介しよう。きっと話が合って面白いだろう。」と勧められ会うことを決めます。この時は顔合わせ程度で終わったのですが、その後、奇遇にも水穂が和田小学校に赴任し、和田村で暮らすこととなり、2人は盛んに交流するようになりました。空穂は当時を振り返り、「水穂との出会いがなければ短歌を詠みはじめていなかったかもしれない、水穂が赴任してきたことは自分やその仲間にとってはかなり大きな意味を持っていた」と言っています。

水穂と出会ったころの空穂

2　この花会

明治33年（1900）、水穂は「この花会」という短歌会を発足し、空穂もこれに参加しました。ここから、空穂は本格的に短歌の世界へと入っていきます。空穂の生家の離れを拠点とし、歌会が行われていました。第一回歌会では、それぞれ次のような歌をあげています。

たまたまに星見えそめて谷かげに
　　梅の花白く家まばらなり　みずほのや
この恋路かなへたまはば南無菩薩
　　かねも鋳てまし堂もたてまし　うつぼのや

そもそも、「みずほ」「うつぼ」の雅号は似ています。なぜ「空穂」なのか、本人は「何ということもなく、思いついたままにそうした」と言っています。しかし、水穂はすでにこの雅号で作歌活動をし、『信濃日報』という新聞に短歌を連載していました。若き空穂は1つ年上の歌壇の先輩、水穂を意識していたのではないでしょうか。

この頃、空穂は自らの歌を水穂に批評してもらっていましたが、「こんなものは短歌ではない」と笑われたというエピソードがあります。これを受けて“水々しく潤った稲穂「水穂」”に対し、自虐的にとらえ“空っぽの稲穂「空穂」”としたのではないかと考える人も少なくありません。

3　空穂夫婦と水穂

明治40年、空穂は30歳の時に島立の亀田屋酒造店の長女「亀井藤野」と結婚しました。この2人をひきあわせ、結婚にあたり尽力したのも水穂です。藤野は水穂の松本高等女学校時代の教え子であり、空穂の島立小学校代用教員時代の教え子でもありました。水穂は、空穂と藤野の間に入り、書簡のやりとりをしたり、藤野の両親を訪ねるなど二人の結婚に向けて奔走しました。

水穂が空穂や藤野に宛てた書簡

4　戦時下のふたり

戦時下、空穂と水穂の関係に大きく影響を与えた出来事が「大日本歌人協会解散」です。水穂は昭和15年10月、齋藤瀏、吉植庄亮と連名で大日本歌人協会の解散を勧告します。協会の役員の中に非愛国者がいるということが理由でした。空穂はこれに対し心穏やかではありませんでした。

時局に敏感だった水穂、

二千年ひとときにして世を更ふる
　　崇き厳しきいくさたたへむ

（昭和13年『螺鈿』）

政治によらず歌人であり続けた空穂、

真心を照らし合ふべく歌つくる
　　歌びとに何の指導のあらむ

（昭和15年『冬日ざし』）

太平洋戦争中の二人の短歌にもそれが大きく表れています。もちろん空穂にも戦争を鼓舞する短歌はありますが、戦中の空穂は主に古典の評釈に力を注ぎました。

おわりに

昭和30年元旦、太田水穂は80歳でこの世を去りました。空穂は、水穂を偲ぶ歌を詠み、水穂との思い出を多く書き残しています。本展を通して、空穂の人生に深く関わった水穂との交流や、その中で確立されていった歌人・空穂の生き方を感じていただけたら幸いです。

（窪田空穂記念館　学芸員／小林明日美）

子規忌展

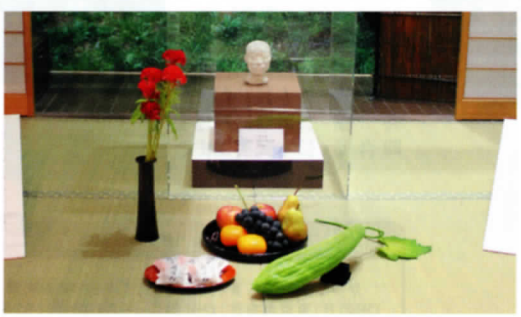
子規忌（9月19日）とは、俳句の中興として知られる正岡子規の命日です。

松本市立博物館では、子規忌にあわせて、松本出身の歌人・郷土研究家である胡桃沢勘内（くるみさわかんない）が蒐集した資料・胡桃沢コレクションの中から、関連資料を毎年展示しています。今年は子規に短歌を学んだアララギ派の歌人・金工作家の香取秀真（かとりほつま）を取り上げます。秀真は勘内と交流が深く、勘内の協力により松本で多くの展覧会を開催しました。今回は勘内と秀真が交わした書簡などを展示します。

また、9月13日には「香取秀真の金工研究について」と題して、「第5回　復活 話をきく会」を開催します。

子規忌当日には、胡桃沢勘内作の「自作正岡子規之像」と二幅の掛軸に、へちま、果物、菓子などを供えて子規をしのぶコーナーも設けます。

会　期　9月13日（土）～9月23日（火・祝）
　　※子規忌は19日（金）に行います。
会　場　松本市立博物館　1階ロビー
料　金　通常観覧料（大人200円、小中学生100円）
問合せ　松本市立博物館へ（☎0263-32-0133）



昨年の子規忌展の様子

企画展　松本平の原風景

四季折々の重要文化財馬場家住宅の魅力を水彩画、スケッチ等の絵画を通じて紹介します。

会　期　10月4日（土）～11月3日（月・祝）
会　場　重要文化財馬場家住宅主屋
料　金　通常観覧料（大人300円）
問合せ　重要文化財馬場家住宅へ
　　（☎0263-85-5070）

馬場家住宅スケッチ

企画展　平成26年度國學院大學 学びへの誘い

戦国・織豊期の古文書

平成26年度は「戦国・織豊期の古文書」をテーマに『吉田家文書』、『八代国治旧蔵史料』、『正親町家文書』、『毛利輝元自筆書状集』、『雑兵物語』などの貴重資料を展示します。

会　期　9月13日（土）
　　～9月23日（火・祝）
　　※9月16日（火）、22日（月）は臨時開館いたします。
会　場　松本市時計博物館
　　3階企画展示室
料　金　無料（1、2階常設展は通常観覧料が必要です）

講演会

『雑兵物語』にみる合戦の風景

日　時　9月13日（土）　午後2時～3時30分
会　場　本町ホール（松本市時計博物館4階）
講　師　根岸茂夫氏（國學院大學文学部教授）
申込み　事前申込み
　　電話で時計博物館まで（☎0263-36-0969）

企画展

芸文の華～高校生活を描いた文芸展～

わが国近現代の優れた文学作品の多くが、旧制高校出身の作家によることは言うまでもありません。その中には、作者にとって強烈で忘れられぬ体験であった高校生活を描いたものも見られます。川端康成の『伊豆の踊子』、尾崎紅葉の『金色夜叉（こんじきやしゃ）』、梶井基次郎の『檸檬（れもん）』、高木彬光の『わが一高時代の犯罪』など、枚挙にいとまがありません。

もとより一般高校生による回想記も数多く残されているのですが、今回は著名作家による作品に登場する旧制高校生の生活を紹介します。

会　期　10月11日（土）～12月7日（日）
会　場　旧制高等学校記念館　ギャラリー
料　金　無料
問合せ　旧制高等学校記念館へ（☎0263-35-6226）

尾崎紅葉『金色夜叉』熱海海岸の場

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

第５回　復活 話をきく会

日　　時　9月13日(土)午後2時～午後3時30分
会　　場　松本市立博物館
定　　員　60人
参加料　通常観覧料(200円)
講　　師　黒川廣子氏
　　(東京藝術大学大学美術館准教授)
演　　題　香取秀真の金工研究について
申込み　電話で松本市立博物館まで

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

第４回短歌講座

日　　時　10月5日(日)
　　午後1時40分～午後3時50分
会　　場　窪田空穂生家
講　　師　日高堯子氏(歌誌『かりん』編集委員)
受講料　1,500円
申込み　9月18日(木)までに所定の申込書と受講料(郵便為替または現金書留)を同封して、窪田空穂記念館へ送付。または記念館窓口へ
問合せ　窪田空穂記念館まで

藤澤八段囲碁教室

日　　時　10月19日(日)午前10時10分～正午
会　　場　窪田空穂生家
対　　象　小中学生
参加料　無料
指導者　藤澤一就八段
申込み　当日までに電話等で窪田空穂記念館へ
　　(当日受付可)

松本市歴史の里から ☎0263-47-4515

歴史の里建築講座

松本市歴史の里に移築されている長野県宝「旧長野地方裁判所松本支部庁舎」を題材とした、近代松本の建築についての講座を開催します。

日　　時　①9月27日(土) 午前10時30分から正午
　　②10月18日(土) 午前10時30分から正午
会　　場　松本市歴史の里
定　　員　20～30名
料　　金　通常観覧料(大人400円)
演　　題　①「松本の近代都市施設とその建築」
　　②「旧長野地方裁判所松本支部庁舎の整備事業について」
講　　師　①梅干野成央氏(信州大学工学部 建築学科助教授・工学博士)
　　②和田勝氏(有限会社信濃伝統建築研究所所長・一級建築士)
問合せ　松本市歴史の里まで

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日　　時　9月7日(日)午前10時～正午
　　担当　おしゃれ茶道の会(裏千家)
　　10月19日(日)午前10時～正午
　　担当　松風の会(表千家)
会　　場　馬場家住宅
参加料　通常観覧料(大人300円)
問合せ　馬場家住宅まで

布ぞうり作り体験教室

日　　時　9月27日(土)、10月25日(土)
　　午前10時～午後3時
会　　場　馬場家住宅
料　　金　1,800円
定　　員　各日10名
申込み　電話で
　　馬場家住宅まで

お月見コンサート

日　　時　9月28日(日)
　　午後6時～午後8時30分(予定)
会　　場　馬場家住宅
内　　容　民謡、琴、謡曲
料　　金　無料
申込み　不要
問合せ　馬場家住宅まで

「古民家バス見学会」安曇野方面の古民家を中心に

日　　時　10月12日(日)
会　　費　1,200円
定　　員　20名
申込み　10月5日(日)から受付開始
　　電話で馬場家住宅まで

四賀化石館から ☎0263-64-3900

化石教室「レプリカ作りコース」

アンモナイトや三葉虫、サメの歯が作れます。

日　　時　10月25日(土)
　　①午前9時～午前11時30分
　　②午後1時～午後3時30分
会　　場　四賀化石館2階学習室
定　　員　20名
対　　象　5歳以上の親子
参加料　一人500円
申込み　前日までに電話で
　　四賀化石館まで

松本民芸館から ☎0263-33-1569

SP レコードコンサート

日　　時　9月20日(土)午後1時30分～午後3時
会　　場　松本民芸館
定　　員　30人
料　　金　通常観覧料(大人300円)
共　　催　松本SPレコード愛好会
問合せ　電話で松本民芸館まで

企画展「里山のおくりもの　ざる・かご展」

かつては農家や杣人の副業として、近くの里山で採った材料を使って丈夫なざる・かごなどの日用品が作られてきました。

会　　期　10月28日(火)～1月25日(日)
会　　場　松本民芸館
料　　金　通常観覧料(大人300円)
問合せ　松本民芸館まで

用の美さんぽ

あがたの森で開催される「クラフトピクニック」に協賛して、信州の伝統を受継いだ職人たちの竹細工・やきものなどを展示販売します。

会　　期　10月18日(土)
　　～19日(日)
会　　場　松本民芸館
共　　催　長野県民藝協会
問合せ　松本民芸館まで

読者からのお便り

かつて博物館に資料をご寄贈くださった松本商業のOBの方(東京都在住)から、館ニュースの前号(193号)掲載記事「近代都市松本―戦争と軍隊、その遺産」に関してお手紙を頂きましたので、一部を紹介します。

博物館ニュースの記事の中、松本50連隊に関し、私には忘れられない想い出があります。私は高等商業学校在学中に軍学校へ入隊、陸軍予備士官学校で終戦を迎えましたが、広島で被爆したため、久留米陸軍病院へ入院、復員は20年11月末、白衣、松葉杖でした。21年3月に復学しました。

わずかしかない軍隊経験の私ですが、思い出は昭和19年3月、松商4年生の時の50連隊の軍旗祭でのことです。5年生が12月で卒業しましたので、3月10日は4年生が松商代表として参列しました。私は校旗を奉持して、松商から出発、女鳥羽川の土堤を通って連隊まで、本番の連隊内、練兵場の軍旗の前では、デコボコの練兵場を足を上げ、元気一杯の行進の先頭でした。終戦近い昭和19年の軍旗祭でしたので、松本50連隊最後の軍旗祭とも言われていました。その後、その年6月、松本50連隊は南方進出の途次、南洋で兵もろ共撃沈され、軍旗も消えたと知り、感極まりました。やはり松本50連隊最後の軍旗祭に参列、軍旗の前を行進しました身としましては胸のつまる思いでした。

お送りいただきました博物館ニュースの記事に「南洋諸島へ向かいました」と読み、思わず昭和19年当時を思い出し、生き残り戦中派老人のタワごとを述べてしまいました。

あとがき

9月21日は「博物館の日」、松本市立博物館は108周年を迎えます。「博物館の日」には、まるごと博物館全体で特別な展示やイベントが行われ、全館無料で観覧できます。この機会に、ぜひお近くの博物館へ足を運んでみてください。今まで行ったことのない博物館が、あなたのお気に入りになるかもしれません。　(Y.S)

あなたと博物館 No.194
発行年月日/平成26年9月1日　編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp　印刷 川越印刷株式会社